**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第１１回　（２０１５年１月６日）**

**・前回勉強会の追加コメント**

　前回の最後で、シュリー・ラーマクリシュナのメッセージが、信仰と理論に基づいていることがよくわかる例を、二つ紹介しました。

1. **本物の太陽と、水に反射した太陽」**
2. **「マザー・カーリーの像はなぜ小さいか」**

　これら例の中には、**信仰と論理的合理性が合わせてあります**。

この二つの例は、ぜひ、メモをとっておいてください。大事な例えです。何が神様か、何が真理か、この例を使えば、論理的にはっきり理解できますから。自分だけでなく、友達にも、子供、親戚にも、家住者にも、わからないときに、説明してください。自分のためでなく、他の人のために、そうしてあげてください。

**・第１１回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(10~11)頁　シュリー・ラーマクリシュナのメッセージの特徴**

p(11)（つづきを読む）**それは個々人に即したものでありながら、**同時に普遍的で、調和に満ち、簡潔にして深淵なメッセージである。

（解説）

**シュリー・ラーマクリシュナの教えは、各個人に即したものでした**。

身体のシステムも、心（考え方）のシステムも、個人個人みな違うでしょう？

消化の力、食事の好み、好きな色、好きな髪形、好きな紅茶、みな、違います。好きなシャンプー、好きな服、好きな靴！　デパートに行くと、ひとつのフロアーが全部、服と靴！　全部形が違います。デザインが違います。どれくらいありますか？　靴は足をかぶせるもの。それ以外の目的はある？（笑い）　ほこりや雨から足をまもる以外の目的はありますか？

　ビジネスマンは皆さんの好みが多様なのを知って、それを理解して、さまざまな商品をつくりお金を稼ぎます。

　このように社会には選択肢は、食事、服、食べ物といっぱいあるが、問題なのは、宗教の選択肢は無いに等しいということ。

もちろん、たくさんの宗教があるけれども、各宗教がすすめる霊的実践は、たいがい、ひとつだけ。ひとつの宗教にひとつの実践。自由が少ない。みな、同じ聖典、同じ神様、同じ預言者を尊敬、礼拝。

軍隊は、みな同じ帽子、同じ靴。そこに個人の選択肢は無い。宗教も同じような状態だと、問題と矛盾があらわれます。

ヒンドゥ教は、宗教のデパートのようです。そこには、信仰の対象としてさまざまな神様がおられ、さまざまな霊的実践法があります。

これは、宗教の先生（グル）についても同じこと。「皆さん」のための助言もありますが、本当の意味では、「皆さん」には助言はできない。**「個人」の好み、能力をきちんと理解して、指導と助言をあたえるのが、本当の良い種類の先生**です。

**ふつうの先生と、偉大な先生の違い**は何ですか？

**ふつうの先生は、自分のレベルで、自分の知っている知識を教えればいい**と考えます。教えはひとつだけ。自分が正しいと思っている知識です。（自分のレベルにとどまり、生徒のレベルに下りてこない）

**偉大な先生は、学生個々人のレベルを考えて、各自のレベルで、教えます。自分のレベルから、学生のレベルにまで下りてきます。下がって教えます。**

**そして自分のレベルにあるたくさんの知識のうち、何がその学生のために必要か、どのように説明したら理解できるか、それを考えます。個人的に教える、それが偉大な先生です。性格も好みも考えも、みな異なるのですから、教え方も、それぞれ異なります。シュリー・ラーマクリシュナはそういう先生でした。**

これはスワーミー・ヴィヴェーカーナンダが使った例です。

レスリングを、まったくの初心者の子どもに教えるとき、先生はどうしますか？　その子のレベルに下がって、何を、どこまで教えたほうがいいかを考えますね。最初から、先生の力を出して、すべてを教えても、その子は理解できず、上達しません。

**シュリー・ラーマクリシュナは、自分の力をすべては表さないで、信者のレベルに下がって、時々は自分が負けたりして教えていました**。レスラーが自分で負けてました。

では、シュリー・ラーマクリシュナの教えが個人的であった例。何か覚えていますか？

若い信者たち（ヴィヴェーカナンダ、ラカール、二ランジャン、ヨーゲンなど）を教えるとき、時々、それぞれに、まったく違う教えを言ったことがありましたね。

しかし、まったく別のことを言っているようでも、それらの**目的は同じ**でした。

その目的のうちのひとつは、**①信者を完璧にするため。悟りのため**です。目的はそうですが、ある人はこの部分、別の人は別の部分が不完全です。それぞれの不完全な部分は、同じではない。だから、不完全な部分を完全にすることが目的ですが、それぞれに教える教えは異なることになります。

もうひとつの目的は、**②ひとつの悟りの方法だけを知るのではなく、ほかの方法や霊的実践も知ったほうがいい。**

たとえば魚料理。ひとつの種類の魚料理だけでなく、いろいろな種類の魚料理が好きでしょう？

悟りの方法も同じ。ひとつの方法だけで悟らないで、他の方法のことも理解してください。調和的を理解してください。**Don’t be monotonous. 単調にならないでください。これを何回も助言**していました。

バクティが好きであっても、ギャーナも実践してください、ラージャ・ヨーガも勉強してください。シヴァが好きでも、マハー・カーリーも礼拝してください。ひとつだけでなくほかの霊的理解、霊的実践もおこなってください。

それでは、シュリー・ラーマクリシュナの個人に即した教えはどのようなものがあったのか、例をあげていきましょう。

これは、感情の抑制についての助言の例。

ある信者の性格はとてもソフトで優しく、感情をおさえるタイプの人でした。しかし、そのソフトさは弱さにつながりあとで問題がおこる、とシュリー・ラーマクリシュナは考えていました。

別の信者はとても怒りっぽくて、性格がとても強く、ストロング。感情をおさえられないタイプの人でした。それも良くありません。

　シュリー・ラーマクリシュナはそれぞれの将来まで考えて助言していました。「あなた、もっとストロングになってください」、「あなた、もうちょっとコントロールしてソフトになってください」。それぞれの信者をよく観察して、理解して、このように個人的に異なった指導をしました。助言はまったく違うでしょ？　ある人には怒りをコントロールしてください、ある人にはもうちょっとあったほうがいい、そうでないと石のようになりますよ、と。（笑い）

これと似たような例を覚えていますか？

（参加者）ヨガ―ナンダジに虫を殺しなさいと言った話。（☞第６回勉強会）

（参加者）ニランジャナーナンダジが舟を揺らした話。（☞第６回勉強会）（☞『福音』序論p(114)）

シュリー・ラーマクリシュナはその助言で、信者に何を教えましたか？

（参加者）弱い人に、強くなるように。

シュリー・ラーマクリシュナは、その助言で、信者に**二つのこと**を教えました。

ひとつは**個々人に即した教え**。

たとえば、ソフトの人にはソフトになり過ぎないように。殺す、殺さないはケースバイケース、殺さなければならないときもある。

たとえば、この部屋にヘビが出た。ヘビと一緒に寝ても大丈夫？　そのときヘビを殺すことも考えるでしょう？　部屋にクモがたくさん出た。蚊がたくさん出た。そのときどうしますか？

バララーム・ボシュ（☞『福音』序論p(98)）は、シュリー・ラーマクリシュナの偉大な家住者の弟子でした。非暴力を実践し、虫も殺さなかった。しかしあるとき、その実践も大事だが、ときには殺さなければならないことがあるのではないか？　バララーム・ボシュの心の中にその疑問があらわれました。私は非暴力をいつも実践しています。シュリ－・ラーマクリシュナもいつも非暴力です。ある日、バララーム・ボシュは、シュリー・ラーマクリシュナの部屋で、ベッドの南京虫をシュリー・ラーマクリシュナが退治す光景を見たのです。バララームはこう言われました、南京虫がたくさんいると、それに噛まれて瞑想が出来ない、と。

どちらが大事？　殺さない方が大事？　瞑想が大事？

南京虫がいると、瞑想ができない。その状況は、南京虫を殺さなくてはならない状況です。魚だって、我々は食べるために殺しています。しかし食べる分だけ。殺さなくては霊的な実践ができないとき、非暴力はケースバイケースとなります。

ここで大事なことは、霊的な実践の障害にたいしての身の処しようです。霊的な実践の混乱と迷いの消し方です。

こんな身近な実践例はどうでしょうか。

友達がやってきました。たくさんおしゃべりをしています。瞑想の時間になりました。しかしあなたは友達に遠慮して、いつもなにも言わない。瞑想の時間はなくなります。それでいいですか？

そのときあなたは、厳しくならないといけない。ちょっと優しい顔をして（これは実践的なコツです）、すみません、これから別の用事があります、すみません、と告げる。

パーティーのとき。お酒を飲まないといけないかもしれない。友達がもっと飲め、もっと飲めと言うかもしれない。しかしお酒は自分のためにあまり良くないですね。ソフトだと、自分があとで困ります。強くなって、厳しくなって、「私はもう飲まない」。

最近の親は子どもに優しい。優しいお母さん、そのイメージがいいという。しかしそれにはリミットが必要です。どこまで優しくするか。リミットをもうけずにいつも優しくして厳しくなることを怠ると、子どもをよく育てることは出来ないでしょう？

子どもが反抗しても、子供が「うるさい！　友達のお母さんはもっと優しい！」と言っても、「あなたは私の息子です」でしょう？　それが大事。あるところまでは優しくして良い。しかしそのあと、厳しくならなければいけないことがある。

ソフトすぎても問題。優しいのもリミットがある。それは状況によるのだ。それがシュリー・ラーマクリシュナの言うことです。霊的な混乱に対して対処できるよう、準備しなさい、ということです。

そして、シュリー・ラーマクリシュナが助言した中にある、もうひとつの教えは、**先生（グル）の霊的な助言は１００％聞かなくてはならない、という教え**です。

生徒に意見があれば、もちろん先生に言ってよい。しかし、先生の前では助言に従うと言っておいて、先生から離れたところで、自分の考え方でやるのは、よくない。先生の助言は理解できない、私は別の意見です、というときは直接言ったほうがいい。しかしそうしないで、先生にはわからないだろうと、自分の考えでやるのはよくない。

シュリー・ラーマクリシュナは、ＯＫ、質問を言ってください、何回でも説明します、という態度でした。スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）は若いころいっぱい混乱がありました。シュリー・ラーマクリシュナとは別の考えも持っていました。それを知っていても、シュリー・ラーマクリシュナはそのことをずっと、何も、気にしませんでした。

ヨガ―ナンダジは、シュリー・ラーマクリシュナに、家に虫がいたら殺しなさい、と言われていました。ですが、家には先生（シュリー・ラーマクリシュナ）はいないから、と虫が出ても殺しませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナは次の面会で確認しました、あなたは虫を殺しましたか？　それがシュリー・ラーマクリシュナの特徴です。**ヨガーナンダジへの助言は、①あなたはソフト過ぎる。もう少し強くおなりなさい**。なぜなら、それはSpiritual light （霊的な光）のために良くないから。そして、**②私はあなたの先生です。私はあなたに、虫を殺しなさいと命令したのです。どうしてあなたはそれをしなかったのですか？　きちんと私の言うことに従わなければいけません。一回私のことを聞かないと、もっと大きな助言も聞くことができません**。

ニランジャナーナンダジが舟でガンガーを渡っている時に、シュリー・ラーマクリシュナの批判を耳にしました。それは、シュリー・ラーマクリシュナを見せかけの放棄者、偽善者だ、という批判でした。若者に放棄を説いているようだが、どうやら寄付ももらうし、いい服も着ている、と。

それを聞いたニランジャナーナンダジは、何度も、やめてほしいと頼みました。しかし彼らはやめなかった。怒ったニランジャナーナンダジは、舟の真ん中に立って、舟を左右に大きく揺らした。みなは溺れるかもしれないと怖がって、もう言いません、許してください、と頼みました。

ドッキネッショルでニランジャナーナンダジは、ことの顛末を話しました。シュリー・ラーマクリシュナは言いました、その種類の怒りはよくありません。あなたには怒りのコントロールが必要です、」と。批判をしている人たちがいても、舟に乗っているひと全員ではなかった。船頭さんは何も言ってなかった。船頭さんは関係ない人。その人も罰するのですか？　舟をしずめられたら、貧しい船頭さんはとても困ります。そのうえ、沈没したら自分も亡くなる可能性があります。罰し過ぎです。（笑い）（☞第６回勉強会）（☞『福音』序論p(114)）

同じ状況が、ヨガーナンダジにも降りかかりましたね。（☞第６回勉強会）（☞『福音』序論p(114)）

（参加者）はい。ヨガーナンダジは批判に対して何も言わなかったので、シュリー・ラーマクリシュナは、なぜあなたは怒らなかったのですか？　と言いました。

　グル（シュリー・ラーマクリシュナのこと）に対する批判でしたからね。しかし最も、言いたかったことは、「あなたのソフト過ぎるところを直してください」ということです。

　本当は、シュリー・ラーマクリシュナは、自分が批判されたって、一向にかまわない。ほめられても一向にかまわない。自分に関して、何もかまうことがない人でしたから。

（参加者）信者も弟子も、何も言わなくていいのですか？

　それは、ケースバイケース。先ほどの、ニランジャナーナンダジのケースを思い出してください。

ところで、教えは個人的であることを理解しないと、誤解が生じてしまう例があります。それを紹介します。

たとえば食事法について。それについても個々人に即します。

たとえばベジタリアン。求道者は、みずから選択して、ベジタリアンの食事をするべきか。それとも求道者は、自分のチョイス（選択肢）を何もなくして、頂いたものだけを食べるべきか。

シュリー・ラーマクリシュナのコメントは何ですか？　ふつうは、霊的な実践をスムーズにするために、よく考えて食事をした方がいいです。からだのために良いかどうか、よく考えて食事をとる。しかし、**もらったもの、何を食べてもその障害にならない人もいます。それは、ナレーンドラ（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）**です。ナレンのために、ベジタリアン、ノンベジタリアン、スパイス、肉、全部ＯＫ、正しい。このように食事法も**個人的**。

インドでは、お坊さんに供物をささげて食べてもらうと願いがかなう、という習慣があります。だから商人たちは、いろいろな食べ物やお菓子を持ってきます。しかしその目的は欲望をかなえることです。ふつうの人にはたくさん欲望がある。欲望をかなえるために、お坊さんに食べさせるというのは、とっても世俗的です。

シュリー・ラーマクリシュナは、そういった供物は食べませんでした。また、どの信者にもあげませんでした。しかし、**ナレーンドラだけは特別でした。なぜなら、ナレンはfull of knowledge 知識の火が内にいつも燃えていたからです。その火で欲望を全部燃やします。その種類の食べ物を食べても大丈夫なのは、ナレーンドラだけ。これも個人的**です。

シュリー・ラーマクリシュナには、医者の弟子たちがいました。ナーグ・マハーシャヤ（☞『福音』序論p(99)）もそうでした。あるとき、シュリー・ラーマクリシュナが、医者の仕事について、こう言いました。「医者の仕事はひとの苦しみから成り立っている。稼いだお金の源はひとの苦しみです」「霊的な実践のために良くない」。ナーグ・マハーシャヤはこれを聞き医者をやめた。シュリー・ラーマクリシュナはそれについて、何も反対しませんでした。

ラーム（☞『福音』序論p(97)）も、お医者さんでした。でも、シュリー・ラーマクリシュナは、その方には医者をやめなさいとは言わなかった。むしろ、ラームの家に行ってご飯を食べたりして、とても仲良しでした。ラームはシュリー・ラーマクリシュナのためにお世話をたくさんして、医者で稼いだお金を、自分のためだけでなく、信者のため、シュリー・ラーマクリシュナのためにもたくさん使いました。これは、ナーグ・マハーシャヤとは別の助言です。お金を稼いでもよい、しかしそのお金を自分のためだけに使わないで、放棄したお坊さんのために、困った人たちのために使って、助けてあげてください。

別の例。

あるとき、シヴァーナンダジがシュリー・ラーマクリシュナの教えを集中して聞きながら、メモしていました。それを見たシュリー・ラーマクリシュナは、「ターラク（シヴァーナンダジのこと）、私の話をメモすること、あなたのために、それはいりません」「それは別の人の仕事です」

さて、どなたの仕事ですか？

（参加者）Ｍさん！

　シュリー・ラーマクリシュナは、みんなの仕事を決めています。この仕事はどなた、あの仕事はどなた。

　質問ありますか？

（参加者）ナーグ・マハーシャヤは、医者をやめて、霊的な生活をするほうがいいと、シュリー・ラーマクリシュナは思ったのですか？

　そうです。ナーグ・マハーシャヤのためには、そうしたほうがいい。

　しかし、Ｈさん（医者の参加者）は、そんなことはないです。誤解しないでください。

（Ｈさん）私は、いつもこの部分を読んで、思っていました。医者のかせぐお金はきたないのか、とすごく傷ついていました。

　**シュリー・ラーマクリシュナは、個人に即して教えをした。しかしどの教えも、目的は同じ、以下の二つでした。**

1. **各人の、不完全な部分を完全にする。各人の、ないものを供給する（満たす）。**
2. **ひとつの悟りの方法だけでなく、ほかの方法、ほかの霊的実践方法も勉強したほうがいい。**

（『福音』勉強会第１１回、以上）